



▲長野県川上村にて、千曲川源流を訪ねて

会員 小定 弘和 (こさだ ひろかず)
公益財団法人日本宇宙少年団 副事務局長

私が宇宙教育に関わったのは、大学生時代に日本宇宙少年団(YAC)のことを大学の先生に教わり、分団活動に参加したところからです。

子どもの教育に関わることに興味を持っていたことがYAC活動に参加した動機で、そのころの私自身の宇宙への興味はというと、大きな流星群が来たら見るくらい。特別に興味を持っているということはありませんでした。

KU-MA とわたし

すべては次世代のために

YACに関わり出してから、宇宙のことだけを教えるのではなく、社会教育活動として異年齢の仲間たちとの交流を通じてチームワークや思いやりの心を育み、また、多面的・多角的に物を考えて行動し、社会を支えることのできる人材育成をしていることに、宇宙教育活動の魅力を感じていきました。さらに、宇宙に関わる人達に会い、その人たちの魅力から宇宙開発や宇宙科学、天文分野そのものへの興味もわいてきました。

2008年にKU-MAが設立した際に、宇宙教育の理念のもとKU-MA活動が広まればと思い、自分も会員にならせていただきました。YACの仕事で土日は出勤していることが多く、「宇宙の学校」の活動に参加することは難しいのですが、宇宙教育がもっと社会に貢献するため、自分が会員を続けることで少しでも活動費の支援になればという考えからの入会でした。最近は少しその想いが変化していて、会員として、活動の「支援」という言葉ではなく、この活動を「推進」するという意識になっていると自分で感じています。

日本の非営利組織(NPO)の活動の一般的な課題として、会費と寄附で運営している団体が多く、職員の人件費は最小限、負担が集中し、新たに人員を増やす資金もないということがあります。KU-MAも会費と寄附で運営している団体であり、しながら現在は会員も寄付金も減少傾向にあるということは総会資料から皆さんもご存知のことと思います。そんな中、事務局の方には少ない人員で宇宙の学校の支援だけではなく、NPO法人としての会員募集・管理、寄付依頼、所轄庁への報告事務などたくさんの業務を担当いただき、頭が下がります。(このKU-MAニュースも忙しい中頑張って作ってくださっているんだなと思うと、読み落としの無いように、毎号ちゃんと読まなきゃ!という気になります。)

これからもKU-MA活動を推進するために、会員である私自身が賛助会員の増加や寄付金の増加などの分野でできることがないか、自らの役割を見つけようとしているところです。次世代のため、さらに宇宙教育活動が活発になるよう、これからも活動していければと思っています。

おとなの「宇宙の学校」

開催
ぎゅらりい



的川先生 講演



教材：月と地球



遠藤先生 教材:ロケット



平林先生 講演



教材：月と地球



教材：熱気球



並木先生 講演

～おとなの「宇宙の学校」アンケートより～

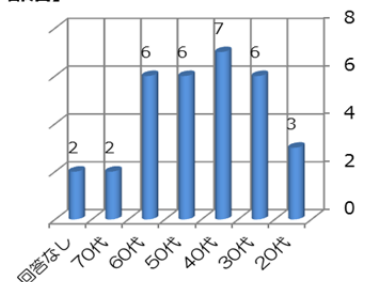
受講者 43 名、アンケート回答者 32 名

★最終回に簡単なアンケートを実施しました。

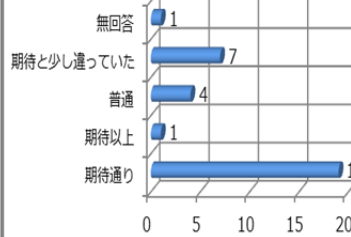
参加者の声をご紹介します。

『毎回とても楽しみに通った』『新しい情報や興味ある楽しい講義内容だったのでまた参加したい』『理論的な知識に限らず研究者ならではのエピソードを聞くことができ、非常に面白かった』『内容について予想とは違っていたが、予想外に得られたことが多かった』『孫との時間にロケットや宇宙の話題で興味を持たせることができ、コミュニケーションの時間が増えた』『宇宙に関する内容が多岐にわたっていて良かった。親子対象のものは多いが、大人向けとなるとかなり専門的になったり、このような内容のものはない。初心者にも非常にわかりやすく学べた。今後の企画も楽しみ』などのご意見や「ターゲットやテーマをしぼっても良い」「最先端情報や技術や知識、学術理論などもっと深い話を期待していた」「孫や子どもと一緒に楽しめる内容を期待」などたくさんの貴重なご意見をいただきました。今後の活動へ生かしていきたいと思っています。

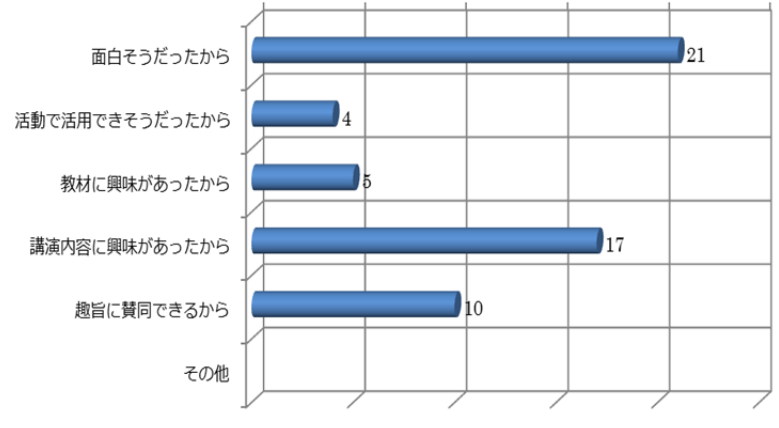
【年齢層】



【内容】



【受講動機】



受付



最終回のディスカッション